



## レオパレス21 ミャンマーオープン 最終ラウンド戦評

ミャンマー/ヤンゴン郊外のパンラインゴルフクラブで  
レオパレス21 ミャンマーオープン2017の最終ラウンドが行われた。

いよいよ最終日を迎えた今年の大会は、日本ゴルフツアーの選手会長でもある  
宮里優作選手がトップ、1打差の2位をK・T キム選手が追うという展開でスタートした。

前半は各選手ともに一進一退のプレーが続き、宮里、K・Tキム両選手もなかなかスコアが  
伸ばせない中、上位に浮上してきたのが、オーストラリアのトッド・シノット選手。

昨日の第3ラウンドで64をマークした勢いそのままにスコアを伸ばし、

後半に入ってから宮里選手を抜いて、首位に浮上。

最終18番ホールもバーディで締めくくるとこの日6バーディノーボギーの  
完璧なゴルフで見事な逆転優勝を飾った。

宮里優作選手は今日2つスコアを落とし、健闘むなしく

トータル9アンダーの6位タイフィニッシュ。

K・T キム選手はトゥデイ・イーブンパーのトータル10アンダーの3位タイで終了した。

トッド・シノット選手はアジアツアー初優勝。

また新たなスターがこの大会から生まれた。

シノット選手の見事な逆転優勝で幕を閉じた「レオパレス21 ミャンマーオープン2017」。

また来年のこの大会ではどのようなドラマが繰り返されるのか、

日本ゴルフツアーとアジアツアーを結ぶこのミャンマーの地で熱戦は続く。

